

## 大使コラム(2013年8月)

8月、リスボンは真夏です。先月も日差しは強烈でも乾燥した日が多く、蒸し暑い日は限られていました。学校も休みに入り、観光客の増加と反比例して、休暇でリスボンを離れる市民は増えています。経済が不況で、夏休みの出費を抑える傾向は昨年以上とみられますが、比較的物価の低いポルトガルには、他の欧州諸国などから観光客が増えているようです。

先月は月初めから3週間以上、政治面での激震が続きました。

発端は、緊縮策を担ってきたガスパール財務大臣の突然の辞任です。同大臣は能吏として評価は高いものの、負担が多い国民からは怨嗟の的になっていました。野党だけでなく与党内からも、国民への説明不足など対応振りが批判されることもありました。緊縮予算の一部が二度も違憲判決を受け、緊縮策の見直しを迫られたこともあります。私的な外出の際に、民衆から罵声を受ける経験もあったようです。何度か辞意を漏らしたそうですが、今回は受理されました。

辞任の翌日、アルブケルク財務副大臣の昇格が発令されました。ところがこれに対し、連立与党の党首でもあるポルトス外務大臣が、ガスパール路線の継続に反対して辞意を表明したのです。外相は、緊縮策だけでなく、成長や雇用をもっと重視すべしとの立場です。連立与党の分裂、政権の行き詰まりから国会の解散、総選挙の可能性が一気に高まりました。世論調査では野党社会党への支持が与党を引き離しており、野党は総選挙を求め、政変の可能性が現実味を帯びる事態となりました。金融市場では緊縮策の行方が懸念され、ポルトガル国債の価格が急落(利率が上昇)し、欧州経済に再び不安がよぎったのです。

ところが、外相は自分の政党(民衆党)の内部から辞意表明を批判され、またコエーリョ首相も時間を掛けて強く慰留に努めました。危機感を持った各界からも妥協を求める働き掛けがあったようです。そこで、ポルトス外相は新財務大臣の任命を認め、自らは外相を辞し、トロイカとの交渉や経済・社会制度の改革などを統括する副首相に昇格することで、連立政権を継続する妥協案が成立しました。当面の政局は収拾されたやに思われたのです。

しかし、右妥協案に対しカバコ・シルバ大統領がこれを了承しませんでした。大統領は、与党(社民党、民衆党)および最大野党(社会党)に対し、「国家救済のための新たな合意」を求める声明を発表しました。政治危機でトロイカ合意の実施が頓挫するのを回避し、国際金融市場への復帰(自力

での資金調達)を実現できる政治協力を求めたのです。具体的には、トロイカ支援が終了する明年6月をメドに総選挙を実施し政治体制を再構築すること、トロイカ合意を完遂できるよう「財政再建プログラム」を見直すこと、および総選挙後の政権が目指すべき共通の方針について、三党間で合意することでした。

政局を振り出しに戻すような大統領の声明は、大方の予想に反したもので、驚きをもって迎えられました。しかし、三党間の協議は行われたものの、結局「三党の合意」は実現せず、大統領は連立政権が任期満了まで継続することを次善の策と認めるに至りました。その後、首相は外相との合意に沿って内閣の一部を改造し、また政府自身の「信任決議」を国会で採択させて、政局劇はようやく終焉に向かったのです。

この政局は国民の不満が背景にあったとはいえ、終わってみれば国民不在の争いだったようにも思われます。国内の政治的混乱はとりあえず收拾され、トロイカ合意の基本方針は維持されました。しかし、国民負担が増す中で、財政再建は目標の3分の2まで達成したといわれながら、肝心の財政赤字の目標達成は今年も容易でなさそうです。今後、ポルトス副首相の調整で、緊縮政策に修正が出るのでしょうか。また、トロイカ合意自体の再修正や支援終了後の追加支援について、トロイカと折衝が行われるのでしょうか。この国の行方は、世界経済の動向や最大の支援国ドイツの対応(来たる9月のドイツ総選挙の結果)にも依存する不安定な状況で、これからも目が離せません。

他方、先月は日本企業15社の代表の方々が「経団連のミッション」として当国を訪問されました。ポルトガル政府の強い要請に応え、また3月にポルトス外相(当時)が企業関係者とともに訪日したのを受けての来訪でした。一行は大統領、首相と会見し、さらに外相の昼食会、経済副大臣の朝食会に招かれたほか、AICEP(投資貿易振興庁)の経済セミナーで当国の企業関係者と意見交換を行いました。政局のただ中で多忙を極めていた当国の要人方ですが、日本の投資誘致や共同事業の可能性について、それぞれ予定の時間を大幅に超えて熱心にお話されました。当国首脳の熱いメッセージを受けて、やがて具体的な新規事業が結実していくよう、大使館でも引き続き協力したいと考えています。

また、先月初めに大使館は、当国の「葡日友好議員連盟」の協力を得て、国会議事堂で「日本酒の講演と試飲の会」を催しました。外相が辞任表明し

た当日にあたり、国会でも政治の動きが活発なときでしたが、シルバ国会副議長やフラスキーリョ「友好議連」会長を始め多くの国会議員や一般の方々が来訪されました。日本食は当地でもブームですが、まだ本物に出会える機会は多くありません。まして日本酒は、詳しく知られていません。このような中で、日本から派遣された専門家が説明を行い、各種の日本酒を試飲した今回の「日本酒の会」は、日本の食文化を本格的に紹介する事業として大変好評でした。大使館では、今後とも質の高い文化紹介に努めていきたいと考えています。

暑い日が続きますが、皆様におかれてましては、ご自愛のほどをお祈り申し上げます。

在ポルトガル共和国大使  
四宮 信隆